

浜嶋です。

おはようございます。

昨日、ベンチャー隊のスカウトとリーダー及び団委員会の一部メンバーが合同で事故対応訓練を実施しました。ベンチャー隊は、昨日からわっばるで隊集会を行っていました。事故は、スカウトだけでキャンプしていたときに病人が発生し、スカウトが救急車の手配をした後、隊長に連絡して、団委員会の支援を受ける想定で行いました。

夜8時30分にスカウトから隊長に連絡し、隊長から副長及び団委員長に連絡する。副長は、病院が決まってから車で病人に駆けつける。団委員長は保護者に連絡し、車を出せる団委員に依頼して保護者を病院まで連れて行くという流れです。

電話やメールで連絡を行い、当初想定した訓練時間は、17分から実際には51分を要しました。

団委員長から発信された同報メールで団委員及び隊長と情報の共有ができました。保護者も途中から同報メールに参加し、状況が分かりやすくなりました。緊急時は、連絡手間が軽減され、有効な方法であると認識できました。隊長から団委員長へは電話、団委員長から保護者も電話を使用しました。

訓練は実際の時間と異なり、「保護者が病院に到着しました」という連絡と保護者が「今から家を出ます」というような事象のずれが発生しました。私は、メールを作成しているときに次の連絡電話が来るとかメールが届くという忙しい対応になりました。

本番では、すべての団委員に同報メールを送ることになります。この訓練で連絡メールに返事を出さない団委員がいました。対応できる人だけが返事を出せばいいのです。車をだせる団委員からの連絡がほしいので、より多くの団委員に連絡が必要です。そこに、多くの人にメールを送ると不要な連絡や問い合わせのメールが出てくることになります。不要なメールは、情報が錯綜し訳が分からなくなり、対応時間を阻害することもあります。不要な連絡はしない方がいいことも実証できました。

今後考えておくべきことは、人命に関わる大きな事故の場合です。あるいは遭難のような場合です。2団の範囲に留まらず、ほくせつ地区や大阪連盟まで連絡が必要になります。すみやかな情報伝達、適切な情報伝達、事実と憶測の情報管理などが必要になります。実際にそのような事態は辞退したいですが、このように考えるだけでも訓練を行ったことが役に立つと思います。

ベンチャー隊からは、訓練の反省をまとめてもらい、団委員会でも確認します。詳しい報告をまとめます。